

2. 野田市立二川小学校

本校の人権教育テーマは「人権教育の日常化を図り、いじめや差別、偏見をなくす人権尊重教育を推進する」である。

このテーマは、学校教育目標「意欲をもって自分をみがく、たくましい子の育成」キーワード「自信と誇り」・「自己肯定感」を基盤としている。

児童向けには、子どもが目指すべき姿をとらえやすくするために、年間を通じて「友達と仲良くしよう」と定めている。すべての子どもたちを尊重し、思いやりの心を持って助け合う態度を育て、共に生きる人間の育成を目指すためである。

また、毎月の職員会議で、その月々の人権教育における全体目標を定め、職員への共通理解を図っている。

① 日常での取り組み

＜自己肯定感を育む学級作り＞

- ・自分の考えを臆することなく発言できる
- ・友だちの発表を傾聴する
- ・子どもの意見をきちんと受け止める（教師側）
- ・一人一人の良さを認める（帰りの会で友だちの良かったことの発表など）

＜生活指導＞

- ・一人一人の人格を尊重する意識を高めるために敬称をつけた呼名を教員も児童同士もしている。
- ・生命尊重・他の人の役に立つ活動として、花づくりや清掃活動に取り組んでいる。
- ・誰とでも気持ちよく接するということの一環として、あいさつ運動に取り組んでいる。

② 地区別集団下校・フレンドタイム

異学年集団の中で自己肯定感の持てる場作りとして地区別集団下校・フレンドタイムを実施している。「自分はグループに必要だ。」「自分大切にされている。」というねらいのもと集団への帰属意識を持てるように実践している。

フレンドタイムやロング昼休み、地区別集団下校などを月1回設定。本年度は月1度の実施を目標とし、年度スタートの「1年生を迎える会」から1年生を含め、縦割りでグループを形成した。



1年生を迎える会

③ いじめアンケート

人権教育の一環として、いじめアンケートを実施した。その結果として、いじめと認識される事例が少なくないという実態が浮かび上がった。それぞれの事例において、当事者同士、個別の相談を持った。また事例によっては、それぞれの保護者とも相談を行った。

また、当事者となっていない子どもたちにも、単なる傍観者とならないように、

「いじめている・いじめられている」行為に対して毅然とした態度がとれるように学年学級の活動を通して指導している。

そして、一旦解消されたと思われる事例でも、個別面談や観察を通して、継続的に現状を把握し、再発防止に心がけている。

④ 人権週間に向けての取り組み

人権について考えることを主旨とし、野田市全体の取り組みとして、子ども人権作品展が毎年行われる。その作品展への取り組みを年間の学習活動に位置づけ、全校児童で人権標語・絵画・習字などを国語科や図画工作科の学習の一環として実施している。作品の制作を通して、人権に対しての意識をさらに深めることをねらいにしている。



子ども人権作品展から

さらにそれらの作品を職員室前や各教室の廊下にコーナーを設けて掲示することにより、自らの作品が大切にされている肯定感を持たせるとともに、友だちの作品の良さを見つけることを目指している。

⑤ 職員研修

教職員も人権意識をさらに高め、児童への指導・援助の一助になるように、年1回職員研修を行っている。今年は東京で定時制課程の高等学校の教員をされていた松崎運之助先生を講師にお迎えして、「学ぶよろこびといのちへのまなざし」という演題で講演をいただいた。

⑥ 保護者・地域との連携

ア P T A教育講演会

保護者への、人権に対する啓発活動の一環として、年1度の教育講演会を実施している。昨年度は落語家の方をお招きした。演題は、「笑いはみんなを幸せに」。落語を通して我々が大切にしなければならない心の在り方について講演をいただいた。この講演会には全児童・教職員も参加した。



P T A教育講演会

イ 地域の行事への積極的な参加

地域の方とのふれあいを通じ自分が大切にされているという自尊感情と自己肯定感を持ち、同時に相手を思いやる気持ちを育むことをねらいとして、地域行事への積極的な参加を呼びかけている。



二川あおいそらまつり

※「二川地区運動会」に1年生から6年生までの100人を超える有志児童がロックソーランで参加。

※「二川あおいそらまつり」も200人を超える多くの児童が参加。